

# NEWS CLIP & AV MATERIAL

## ◎ ニュースクリップ&映像教材



### ■第9回「全国こども科学映像祭」開催される

平成23年2月5日(土)、日本科学未来館(東京都江東区)において、「全国こども科学映像祭」が、児童、生徒、先生や保護者などの受賞者や審査委員、関係者等、多くの参加者のもと行われた。入賞作品の表彰後、文部科学大臣賞に輝いた小学生部門「 $\pi$ 」と中学生部門「うみうしー貝殻を脱ぎ捨てる巻貝」の2作品が上映された。また、「自分のおもしろいを見つけよう」と題して、自然・科学番組ディレクター水沼真澄氏による記念講演が行われた。

## NEWS CLIP

### AV情報

#### ■ 記録映画アーカイブ・プロジェクト シンポジウム「占領期・ポスト占領期の視聴覚メディアと受容—民主化・冷戦・モダニティ」

東京大学大学院情報学環他主催により、標記シンポジウムが開催される。

〈日時〉平成23年3月5日(土)・6日(日)

14:00~18:00(開場は13:30)

〈場所〉東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール 福武ラーニングシアター(東京都文京区本郷7-3-1)

〈内容〉○第1部(5日)テーマ「浸透するアメリカ・変容するアジア—CIE/USIS映画とラジオ放送」として、報告「広告/広報/心理戦?—冷戦期米国の情報活動を評価する」ケネス・オスグッド氏(ウィリアムズ大学/フロリダ・アトランティック大学)、「駐韓米公報院映画:米国のヘゲモニー構築と『冷戦近代』教育の最前線」許殷氏(高麗大学)、「アイゼンハワー政権の原子力の平和利用キャンペーンとUSIS映画」土屋由香氏(愛媛大

学)、「冷戦期東アジアにおけるアメリカ・プロパガンダ—韓国・北朝鮮、そして沖縄」小林聡明氏(東京大学/ソウル大学)

○第2部(6日)テーマ「社会科映画と日本の民主化—発見された常総市コレクション」として、映画上映「わが街の出来事」1950年・14分(CIE映画)、「はえのいない町」1950年・12分(社会科教材映画大系)、「伝染病とのたたかい」1950年・12分(同)、「町と下水」1952年・21分(同)、制作者が語る:藤瀬季彦氏(カメラマン・元岩波映画製作所社長)、全体討論等。定員180名。入場無料。第2部は、下記より、事前申し込みをする。

<http://www.kirokueiga-archive.com/>

〈問い合わせ先〉○第1部 愛媛大学法文学部 土屋由香(tsuchiya.yuka.mx@ehime-u.ac.jp)、立教大学社会学部 井川充雄(m-ikawa@rikkyo.ac.jp)

○第2部 記録映画保存センター TEL 03-3222-4249 MAIL center\_otoiawase@kirokueiga-hozon.jp

#### ■ 第10回ケータイ国際フォーラム「ケータイと人の未来—ケータイ発のビジネス、文化は世界を救うか—」

ケータイ国際フォーラム推進会議(代表 京都府知事山田啓二)主催により、標記フォーラムが

## トピックス

## 文部科学省共催「教育ICT活用実践研究」 北海道・東北ブロック発表会 1月21日に 仙台市で開催

既報の通り、教育ICT活用普及促進協議会では、昨年より、全国を7つのブロックに分け発表会を行ってきたが、去る1月21日開催の仙台市立愛子小学校（吉田利弘校長）での北海道・東北ブロック発表会によりすべて終了した。同発表会は仙台市教育委員会認定自主公開研究会との併催で開催したもので、教育ICT関係者86名を含む仙台市内の教育関係者266人の参加者を得て実施された。



写真1 全体会

当日午後より開始の全体会では（写真1）、文部科学省より齋藤晴加生涯学習政策局参事官が挨拶を、稲垣忠東北学院大学准教授が指導助言を行った。

その後、9つの公開授業・分科会を実施し、当日の日程終了後、同協議会の情報交流会（写真2）として、実践研究参加校の先生方16名と、齋藤参事官、稲垣准教授を交え、トークタイム（各校の取り組み・自己紹介）、質疑（課題の共有）、資料交換・名刺交換等を行い、各実践参加校からの活発な情報交流が行われた。

発表会の報告は、本誌25頁を参照。



写真2 情報交流会

開催される。

〈日時〉 平成23年3月16日（水）・17日（木）  
10:00～17:30（17日は、17:00まで）  
〈会場〉 知恩院 和順会館（京都市東山区林下町400）  
〈内容〉 ビジネスカンファレンス「ケータイビジネスの未来—ソーシャル、スマートの先に何があるのか?—」（ケータイビジネスの未来について議論）、テクノロジーカンファレンス「テクノロジーから見たモバイル未来」（技術面からポスト・モバイルのかたちを予想）、AMIOフォーラム「放送×電子出版で実現する次世代配信モデル」（放送と出版の融合実用化に向けたモデルの発表等）、ポスターセッション、体験ブース等。定員200名。参加費は無料だが、内容によって、事前申込制（先着順）。下記を参照のこと。

<http://www.itbazaar-kyoto.com/forum/>

〈問い合わせ先〉 ケータイ国際フォーラム実行委員会事務局 京都府商工労働観光部ものづくり振興課内 TEL 075-414-4847 京都商工会議所 TEL 075-212-6453 MAIL keitai@itbazaar-kyoto.com

### ■「コ・フェスタPAO WEEK」

経済産業省他主催により、次世代の新しいクリエイターを発掘・育成する標記プロジェクトが、

下記のように開催される。

〈期間〉 平成23年3月22日（火）～27日（日）  
〈場所〉 東京ミッドタウン（東京都港区赤坂9-7-1）  
〈内容〉 映像と関連つけたトークショーやワークショップ。若手映像作家によるPAOオリジナル中編映画等。参加費は無料。詳細は、下記を参照のこと。  
<http://www.cofestapao.jp/details/paoweek/index.html>

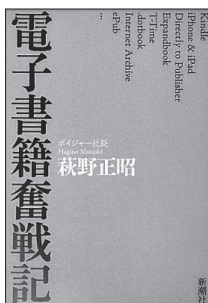
〈問い合わせ先〉 コ・フェスタPAO事務局  
MAIL [info@cofestapao.jp](mailto:info@cofestapao.jp) TEL 03-5776-7216  
〈受付時間〉10:00～17:00土日、あるいは時期によってはメールのみの受付

### ■「東京国際アニメーションフェア2011」

東京国際アニメフェア実行委員会（委員長石原慎太郎東京都知事）では、今年で、第10回を数える標記アニメーション総合イベントを開催する。

〈日時〉 平成23年3月24日（木）～27日（日）  
なお、24日・25日10:00～17:00は、ビジネスデー（関係者・ビジネス来場者のみの受付）にて、26日・27日10:00～18:00は、パブリックデーとなっている。入場は、終了時間の30分前まで。  
〈会場〉 東京ビッグサイト（東京都江東区有明3-10-1）  
〈内容〉 見本市（国内外のアニメーション関連企

## ▶ブックレビュー



## 「電子書籍奮戦記」

萩野正昭著

新潮社

2010年11月20日発行 224頁

1,365円（税込）

2010年は「電子書籍元年」といわれた。

2009年9月、読書専用端末「Kindle2」（国際版）が日本に出荷され、2010年2月には、日本の大手出版社による「日本電子書籍出版社協会」の立ち上げ。そして、2010年5月には、アップル社が、電子書籍の購読ができることを販売戦略の一つとするタブレット型コンピュータ「iPad」を日本で発売。これに先立つこと1か月前の2010年4月。「1日3万台、ダウンロードされたiPadアプリは350万本、iBookstoreからダウンロードされた電子書籍は60万冊を記録」との報道もあ

って、我が国では、「電子書籍」に、一気に、火がついた「電子書籍元年」となったようである。

本書は、「未来の見えない」混沌とした「紀元前」の時代の中でさえ、「映画と本が一緒になる」ことに確かな望みを託し、「ものを発信させるという姿勢」と「読むものと書くものとの融合」を頑固なまでに見据えた著者の戦いの記録である。「電子書籍を出版すること」は、著者にとって、デジタルの本質である「自由」を最大限に尊重し、「紙の本に何かを付け加えること」によって「読むように見る、見るように読む」という「自由」を「手放したくない自由」として実現させることであり続け、この一点にこだわり関わってきた著者が、「電子出版を文化として育てたい」という壮絶なまでの18年間の人間模様を描く自伝的ドキュメンタリーとなっている。

紙の書籍に加えて電子書籍という新たな選択肢が並存し、「本ではなく読むを送る」という著者の思いは、読者の心に豊かな経験及び体験を刻む選択肢として、根づいて欲しいと願うのは筆者だけではあるまい。（東京学芸大学教授 篠原文陽児）

業による展示)、「アニメーションオブザイヤーズ」(アニメ作品のコンペティション)、クリエイターや研究者によるシンポジウムや講演等。詳細は、右記を参照のこと。<http://www.tokyoanime.jp/>  
〈入場料〉ビジネスデーは、事前登録により無料。未登録は、1,000円（税込）。18歳未満入場禁止。パブリックデーは、大人1,000円 中高生 500円（前売 大人800円 中高生 400円）ともに税込。小学生以下、65歳以上および障害のある方と介助の方2名まで無料。

〈問い合わせ先〉東京国際アニメフェア実行委員会事務局 TEL 03-5777-8600

〈内容〉携帯端末を利用した授業体験・実践紹介、基調講演：余田義彦氏（同志社女子大学教授）、実践発表、パネルディスカッション、最新の教育ICTシステムの紹介等。定員40名になり次第、締切。参加費は無料だが、事前申し込みが必要。

〈問い合わせ先〉シャープシステムプロダクト(株)近畿支店 TEL 082-875-0220

## 研究会情報

### ■ 平成22年度情報教育対応教員研修全国セミナー「教育ICT活用実践セミナー in福山」開催

（社）日本教育工学振興会により、標記セミナーが開催される。

〈日時〉平成23年3月12日（土）10:00～17:00（9:30より受付）

〈会場〉SOHO福山倶楽部（広島県福山市東桜町1-41）

## コンクール情報

### ■ 第7回「プリントコミュニケーションひろば」作品募集

（財）理想教育財団では、読み継がれる通信づくりをめざして、学校でつくられる各種「通信」を作品として募集している。

〈対象〉小・中・高等学校および特別支援学校の教職員。  
〈応募作品の条件〉教職員が「通信」を目的として編集・制作し、定期的に継続して発行された通信で、平成22年4月以降に制作発行されたもの。新聞・雑誌・コンクール等で未発表のもの。児童・生徒、保護者、地域社会に実際に配布したもの。学校現場の機器を使用して複数枚制作した作品。

他の著作権を侵害しないものに限る。応募方法等、詳細は、右記を参照のこと。<http://www.riso-ef.or.jp/> (応募部門) 「個人単位の応募」と「学校単位の応募」がある。「個人単位の応募」には、①学級通信・学級だよりの部、②学年通信・学年だよりの部、③学校通信・学校だよりの部、④保健室だよりの部・図書だよりの部、①～③以外の通信の部。「学校単位の応募」には、⑤学校のトータルな通信活動の部。  
 (応募締切) 平成23年3月31日(木) 当日消印有効。  
 (賞) 理想教育財団賞 トロフィーと副賞(図書カード10万円分) 1点、部門別優秀賞 トロフィーと副賞(図書カード3万円分) 4点他。  
 (発表) 平成23年6月上旬ホームページ等にて。  
 (問い合わせ・作品送付先) (財)理想教育財団第7回「プリントコミュニケーションひろば」作品募集係 〒105-0004東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館 TEL 03-3575-4313

市教育委員会主催による標記コンテストは、アマチュアビデオコンテストとして、22回を数える。全国の応募から、下記のように受賞が決定した。  
 (グランプリ部門) ビデオ大賞「23歳の挑戦」、兵庫県知事賞「越後上布の伝統を継ぐ」、篠山市長賞「指一本で描く 生きてる証し」他。  
 (デビュー部門) 優秀賞「地域 新発見」「ぼくのバッジ」「大山 紹介ビデオ」他。なお、入賞作品は<http://edu.city.sasayama.hyogo.jp/video/index.html>にて、視聴できる。  
 (問い合わせ先) 丹波篠山ビデオ大賞実行委員会事務局 TEL 079-590-1301

## 各地の情報

- 「第22回兵庫県丹波篠山ビデオ大賞」発表  
丹波篠山ビデオ大賞実行委員会、篠山市、篠山

## 短信

- 文部科学省生涯学習政策局参事官付の異動  
平成23年2月8日付○参事官付情報政策室教育情報施策調整係長 原田智氏→大臣官房政策課企画係長○大臣官房文教施設企画部施設助成課馬渡寛子氏→参事官付情報政策室教育情報施策調整係

## AV MATERIAL

### 文部科学省選定作品

- 1月選定 紙しばい / ビデオ / DVD  
 「暗やみは危険がいっぱい」 15分 (小学校(中・高学年)、特別活動)(有)ケントハウス  
 「奪われた夢—危険への想像力で事故を防ぐ—」 24分 (青年・成人、地域社会生活(交通安全・防犯))(有)斉藤プロダクション

- 12日 シリーズ卒業②旅立ちの日に—僕たちの絆—
- 19日 中学生日記アンコール 番組未定
- 26日 中学生日記アンコール 番組未定

### エル・ネット

教育、学習に利用できる400以上の動画コンテンツをインターネット配信 (<http://www.elnet.go.jp>)。  
 (2ch 文部科学省から)  
 「発見! 人間力(其の115) もう一度学舎へ—70代の中学生—」

西日本を代表する名峰・大山のふもと鳥取県伯耆町では、全国的にも珍しい生涯学習の取り組みである「中学校聴講生制度」が行われている。現在、聴講生として中学校に通う3人のうちの2人が70代。「もう一度学びたい」という強い意欲のもと、孫のような年齢の同級生・教員たちとともに勉強に励んでいる。年を重ねた後に、再び学舎へと通う聴講生の学校生活が描かれている。

### 放送番組・Web配信

#### 中学生日記

(土) 19:15~19:45 / NHK教育  
 翌週(土) 13:00~13:30 / 再放送 NHK教育  
 中部7県は翌週(土) 10:05~10:35 / 再放送 NHK総合  
 ※都合により番組内容が変更となる場合があります。

- 5日 シリーズ卒業①YELL—私の足跡—